氷見山工業（石川）
改修工事、軽量鉄骨を製作
Rグレード取得に取り組む

石川県のファブで工場、事務所などの改修をはじめとする一般建築工事、鉄骨加工を手掛ける氷見山工業（金沢市、氷見山茂喜社長）では現在、性能評価Rグレード認証取得に向けた取り組みを進めており、来年度中の取得を目指している。

同社は工場や事務所の改修工事を請け負うとともに、建物内部の間仕切り下地や架台、踏み台、耐震補強部材など、軽量鉄骨を製作してきた。

近年、鉄骨製作の要望が増えていることから、石川県鉄骨工業協同組合に入会し、Rグレード取得に向けて社内体制の整備、鉄骨加工の技術力向上、資格者の育成などを推進し、来年度前期の工場審査を申請している。

設備は形鋼用鋸切断機1台、鋼板用シャーリング1台、曲げ加工機1台、半自動溶接機5台、2・8㌧吊り天井クレーン2基、工場内作業者は5人。手作業が多いことから工場内は道具やコード類の収納といった整理整頓と清掃を徹底するなど、安全活動に力を入れている。氷見山社長は「改修工事を中心に鉄骨製作も含めた受注を拡大していけるよう、体制を整えていきたい」としている。

整理整頓と清掃の徹底が進む工場内

経営計画発表会を開催
社員の取り組みを評価
小田鉄工（兵庫）

兵庫県のMグレードファブ、小田鉄工（加西市、小田岳人社長）は10日、加西市の「いこいの村はりま」で社員と取引先に向けて57期経営計画発表会を開催した。今後の経営目標や展望を示すとともに清掃や改善案提出などへ積極的に取り組んだ社員を評価した。

小田社長が経営目標や展望を示す

小田社長は計画書をもとに事業目的や経営理念、鉄骨製作に関わる環境と社内の状況などを説明。この中で経営理念について「仕事を通じて社会をご機嫌にする」こととし、「〝ご機嫌〟とは幸せな状態のこと。これを追求していきたい」と強調したほか、強みを生かした新規事業への展望を述べた。

また、気付いた時に自主的に清掃する「15分清掃」と、業務上の改善案を提案・実践する「チョコ案」（ちょこっとした改善案の意味）で、実施印が多い社員の名前を読み上げ評価した。

チョコ案が最も多かった藤岡建吾さんは「手を抜かず楽に仕事ができないかを考えて提案している。私一人で実現できるものはなく、ともに働く皆さんに感謝している」と語った。